

第7回「震災対策技術展」東北において講演および展示を行いました(2016/8/25-26)

テーマ：災害に強いまちづくり・自然災害・震災技術
場所：仙台市 AERビル5階・6階
URL：<http://www.shinsaiepo.com/tohoku/>

平成28年8月25日(木)・26日(金)の2日間にわたり、東日本大震災の教訓を後世に伝え、災害に強い社会の構築を目指す目的で、第7回「震災対策技術展」東北—自然災害対策技術展—が開催され、産・官・学の防災関係者が参加しました。「震災対策技術展」は1997年の神戸開催以来、日本各地で開催されており、災害科学国際研究所は宮城での開催を後援しています。当研究所からは、源栄正人 教授(災害リスク研究部門)および佐藤健 教授(情報管理・社会連携部門)が実行委員として準備段階から参加しました。

当日は、東北大学地震・噴火予知研究観測センター 長谷川昭 名誉教授による基調講演の他、43のセミナーが4会場に分かれて行われました。セミナーでは、当研究所の吉田浩 教授(人間・社会対応研究部門)、遠田晋次 教授(災害理学研究部門)、栗山進一 教授(災害医学研究部門)、泉貴子 特任准教授(情報管理・社会連携部門)、高瀬慎介 助教(地域・都市再生研究部門)、山下啓 助教(地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門)がそれぞれ講演しました。あわせて、会場では展示WGによる当研究所の研究・活動を紹介するパネル展示が行われたほか、3D映像体験コーナーを地震・噴火予知研究観測センターと共同で設置しました。パネル展示では、熊本地震や活断層などについて活発に意見交換が行われ、大変有意義な展示となりました。

セミナー講演タイトルは、以下のとおりです(講演順)。

【講演】

- ・吉田浩 教授(防災社会システム研究分野)「東日本大震災後5年目における被災地の暮らしに関するアンケート調査」
- ・山下啓 助教(地震津波リスク評価(東京海上日動)寄附研究部門)「数値シミュレーションでわかった、津波土砂移動が及ぼす津波被害拡大への影響-津波ハザードと海域生態系-」
- ・高瀬慎介 助教(地域安全工学研究分野)「防災・減災のための災害シミュレーション技術」
- ・遠田晋次 教授(国際巨大災害研究分野)「平成28年熊本地震と活断層」
- ・泉貴子 特任准教授(社会連携オフィス)「企業の防災における様々な役割：バングラデシュの事例をもとに」
- ・栗山進一 教授(災害公衆衛生学分野)「災害後に増加している小児肥満とアレルギー疾患」

会場には両日とも1,800名以上の方々が来場し、活気のある技術展となりました。



吉田浩教授



山下啓助教



高瀬慎介助教



遠田晋次教授



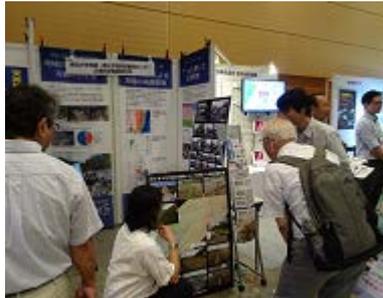
泉貴子特任准教授



栗山進一教授



セミナー会場の様子



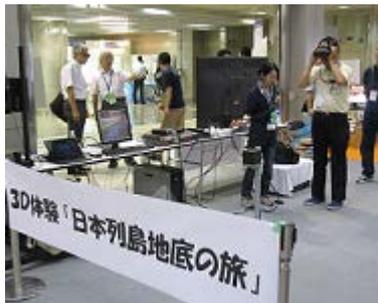
展示ブース



展示ブース



3D映像体験



3D映像体験

写真撮影：
佐藤 健(情報管理・社会連携部門)
鈴木通江(広報室)